

HIROKYU ヒロキューのタチウオエサ勢ぞろい
サバの切り身&マイワシエサ

（ 韋駄天塩締めさば 短冊30枚入り ）

●新鮮なサバを塩で締めてあるので型くずれしにくい。アミノ酸効果で食いもよく、タチウオのテンビン釣りにもピッタリの細切りサイズ。30枚入りで価格はオープン。



▲タチウオ用にピッタリの細切りサイズ



▲エサ付けは縫い刺しで

（ マイワシ真空 ）

●同じく獲れたてのマイワシを急速冷凍して真空パック。約200グラムで価格はオープン。



（ 新鮮冷凍イワシ ）

●産地で水揚げされた新鮮なマイワシを急速冷凍。身が硬くエサ持ちがよく、テナヤ釣りのエサとしてもピッタリ。サイズは15センチ前後、約200グラムで価格はオープン。



▲イワシは頭を落とさずそのまま付けるとピッタリ



▲「アタリはあるんだけど～」と悩むしほみん



やっとながった！

▲なんとか釣り上げた1本目



▶「どうして私だけ釣れないの」と横目でにらむしほみん
▼最後はテナヤ釣りにチェンジ



▶しほみんの隣の方もテンビン釣りで連発
▼観音崎沖に移動して同船者が次つぎと



はしゃぎ。船中でもこのころから食いが上向き、同サイズが多いものの少しずつ活気が出る。アタリは出せるようになったが、依然としてハリ掛かりに持ち込むのに苦戦している。2本目はそれから1時間半もかか



不定期連載◎第4回 東京湾奥浦安出船のタチウオ船釣り行脚っす！
しほみん、苦手な釣り第2弾 目指せドラゴン…のはずが…

★タックルの扱い、釣り方から取り込みまではさすがしほみん、様になっている



悔し！



狙うはドラゴン！

▲信頼のヒロキュー、タチウオ用のエサをたっぷり用意
▼復調気配の走水沖を狙った

★「釣りガールを目指すならどんな釣り物も制覇すべき」と考えるしほみん（吉野七宝実）、苦手なカワハギに続いてチャレンジしたのがまだ一度の経験しかないタチウオ。今期の釣れっぶりから安易に「ドラゴン、釣っちゃうよ～」と公言したはいいもの……。



◀ドラゴンは不発、当日は指幅4本クラスがメインだった
▶テンビン仕掛けは1本バリエオモリ80号



「もっと早くテナヤに替えればよかった」と愚痴っても後の祭り。いくばくもなく納竿の14時を迎えた。トップは11本、しほみん2本で反省点はたっぷり。「今日の反省を次回に生かします」と言いつつも、タチウオ料理に頭を巡らせるしほみんだった。

つたが、1本目よりひと回り大型を釣って胸をなで下ろす。「分かった、ような気がする」と言うしほみんだが、このころから食いが渋くなり、船は小移動を繰り返す。午後からは観音崎沖の水深80メートル前後に移動。船中ポツポツとは釣れ始めるが、しほみんにはアタリなし。そこで最後の手段としてテナヤ釣りにチェンジ。このときのために用意したヒロキューの「新鮮冷凍イワシ」を付けて投入すると、すぐにアタリをキャッチ。ところが、持参した竿が軟らか過ぎたため（テンビン用のL Tタチウオ竿）か、これまたハリ掛かりに至らず。その後の投入でもアタリは頻繁で、

今シーズン、異常とも言えるほど釣れ盛った東京湾のタチウオだが、昨年の晩秋あたりから徐々に下降線。釣行した12月中旬も竿頭でなんとか2ヶ旬前後といった状況。それを知ってか知らずか、出船前からしほみんはテンションマックス。狙うはドラゴンと言いつつも元氣よく船着き場に向かった。乗船したのは東京湾奥浦安の吉久のタチウオ乗合だ。強い北風が吹きつけるなか、6時40分に河岸払い。このところ木更津沖の浅場を狙っていたが、本命場所の走水沖が復調気配とのこと。約1時間半の航程で水深70メートル前後のポイント着。同船ではテンビン、テナヤ釣りも可能だが、まずは同船者に合わせてテンビン釣りでチャレンジ。しほみんのタチウオ釣りはほぼ1年ぶり、仲乗りにさんにエサの付け方を教えてもらい、ワクワクの第1投。ところが、アタリはくるものの掛けられない状態が続く。そこで再び仲乗りに助け船。4分の1回転のシャクリで誘う。アタっても誘いを止めないと教えられ、そのとおりに実践。すると間もなく、しほみんの竿が大きく曲がった。上がったのは指幅4本の中型だったが、ようやく顔を見て大

しほみんのタチウオ釣り動画はこちらから
★当日の様子は以下のヒロキューサイトからご覧いただけます。